

授業科目名	【G】 社会保障法Ⅰ 【H】 社会保障法Ⅰ	区分	開講年次	【G】3 【H】3	単位数	【G】2 【H】2		
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	社会保障法総論、公的年金、公的医療保険を学ぶ			担当者	坪 義生			
授業概要	【概要】	<p>【実務(社会保険労務士・労働基準監督署労働相談員)経験を活かした授業】 現開業社会保険労務士及び元労働基準監督署労働相談員としての実務経験を踏まえ、必要に応じて具体的な事例を取り上げ、社会保障法の理解の一助とする。</p> <p>社会保障法という名称の法典はない。社会保障法とは、社会保障に関する多くの法律の総称である。医療、年金、福祉など、社会保障の諸制度は、国民生活に欠くことのできない重要な役割を担っている。前半に当たる本講では、社会保障法に関する総論的課題(社会保障法の特質、理論と課題)、年金、医療保障を学ぶ。</p>						
	【到達目標】	<p>1. 社会保障の諸制度の全体像を把握し、説明できるようにする。 2. 自らも当事者となる社会保険(健康保険・厚生年金保険・国民年金)については基本的諸手続きの流れを説明できるようにする。</p>						
履修条件	「社会保障法Ⅱ」と併せて履修すること。							
アクティブラーニングの方法	【○】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【-】	グループワーク	【-】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	「労働法Ⅰ」を同時に履修することが望ましい。							
教科書	西村健一郎『社会保障法入門』有斐閣							
参考書	佐藤進他『社会保障判例百選』第三版 有斐閣 坪義生、『社会保険・労働保険の実務 疑問解決マニュアル』三修社							
評価方法	毎回、実施する確認テストの結果を80%、授業の参加態度(確認テストの提出期限の順守、質問等)を20%として評価する。							
フィードバック方法	確認テストの提出後、提出の確認とともに解答例を送信する。							
評価基準	上記授業単元の内容について、概略を理解した者は「C」、その背景や理由等も理解した者は「B」、さらに、主要な学説や判例を理解し、自己の見解を適切に表現できた者は「A」とする(うち特に優れたものには「S」)。単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」、評価不能の場合は「F」とする。							

授業科目名	【G】	社会保障法Ⅰ	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	社会保障法Ⅰ	その他参照		【H】3		【H】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンスと講義概要(労働法の概要、授業の進め方等)						
	予習: 本シラバスを熟読しておく。			復習: ガイダンスで述べた学習内容を整理しておく。			
2	社会保障法とは—現代社会と社会保障の必要性、社会保障の生成・発展、社会保障の国際基準について						
	予習: 教科書第1章1～3を熟読しておく。			復習: 社会保障の成立と発展の概要を把握する。			
3	社会保障法の体系—社会保障の体系について						
	予習: 教科書第2章を熟読しておく。			復習: 社会保障の4つの主要部門をしっかりと整理しておく。			
4	医療保険Ⅰ—日本の医療保険制度の特徴、高齢者医療確保法について						
	予習: 教科書第3章1～2を熟読しておく。			復習: 日本の医療保障制度の特長、高齢者医療の仕組みを整理する。			
5	医療保険Ⅱ—健康保険法の適用・被保険者・被扶養者・保険者について						
	予習: 教科書第3章3-1～3-2を熟読しておく。			復習: 健康保険の保険者、適用事業、被保険者を把握する。			
6	医療保険Ⅲ—健康保険の保険給付(療養の給付・家族療養費、保険外併用療養費、療養費)について						
	予習: 教科書第3章3-3を熟読しておく。			復習: 健康保険の給付の概要、療養給付・療養費の相違を整理する。			
7	医療保険Ⅳ—健康保険の保険給付(高額療養費、傷病手当金、出産手当金等)について						
	予習: 教科書第3章3-3(5)～(9)を熟読しておく。			復習: 高額療養費、傷病手当金、出産手当金の意義・内容を把握する。			
8	医療保険Ⅴ—費用負担、国民健康保険、医療供給体制について						
	予習: 教科書第3章3-4、4、5を熟読しておく。			復習: 費用負担、国民健康保険、医療供給体制の概要を整理しておく。			
9	年金保険Ⅰ—高齢化の進展と年金保険制度、年金制度の沿革について						
	予習: 教科書第4章1、2を熟読しておく。			復習: 年金制度の意義、変遷と体系について整理しておく。			
10	年金保険Ⅱ—国民年金の意義、被保険者、年金給付の種類・支給手続きについて						
	予習: 教科書第4章3-1～3-3を熟読しておく。			復習: 国民年金の被保険者の種類と年金給付の種類を整理しておく。			
11	年金保険Ⅲ—老齢基礎年金、障害基礎年金について						
	予習: 教科書第4章3-4、3-5を熟読しておく。			復習: 老齢基礎年金の支給要件、障害基礎年金の種類を整理しておく。			
12	年金保険Ⅳ—遺族基礎年金、第1号被保険者の独自給付について						
	予習: 教科書第4章3-6、3-7を熟読しておく。			復習: 遺族基礎年金の支給要件、第1号被保険者の独自給付を整理する。			
13	年金保険Ⅴ—厚生年金保険の目的・仕組み、年金給付等について						
	予習: 教科書第4章4-1、4-2を熟読しておく。			復習: 適用事業、被保険者の種類、給付の概要を整理する。			
14	年金保険Ⅵ—老齢厚生年金、特別支給の老齢厚生年金、在職老齢年金について						
	予習: 教科書第4章4-3～4-5を熟読しておく。			復習: 老齢厚生年金、在職老齢年金の仕組みと支給要件を把握する。			
15	年金保険Ⅶ—障害厚生年金・障害手当金、遺族厚生年金について						
	予習: 教科書第4章4-6、4-7を熟読しておく。			復習: 障害厚生年金の種類、遺族厚生年金の受給権者を整理する。			
その他	<p>期末試験は実施しない。ただし、隔週で当日の講義内容の確認テストをGoogleクラスルームで出題する。また、適宜、授業中に欠席確認をする。なお、「予習・復習」の時間配分の目安はいずれも2時間程度とする。しっかりと予習・復習をすること。</p> <p>※G・Hカリ:【選択必修修(サ)】</p>						